

第2回 教職の魅力創造プラットフォーム会議事録

日時：令和5年12月17日(日) 9:00～10:00

場所：山形大学基盤教育1号館会議室

出席者

委員	出口 毅	山形大学副学長（教育担当理事）
	中西 正樹	山形大学地域教育文化学部 学部長・大学院教育実践研究科 研究科長
	石垣 和恵	山形大学地域教育文化学部 准教授
	江間 史明	山形大学大学院教育実践研究科 教授
	森田 智幸	山形大学大学院教育実践研究科 准教授
	叶内 有希絵	山形県教育局高校教育課 指導主事
	山岸 和	山形大学地域教育文化学部児童教育コース 4年
	鬼海 仁	山形県立山形東高等学校 2年
	高橋 七海	山形県立山形西高等学校 2年
	青柳 敦子	山形県立長井高等学校 校長
	樋渡 美千代	山形県教育センター 副所長
	宮舘 新吾	山形大学大学院教育実践研究科 准教授

欠席者

委員	吉田 誠	山形大学地域教育文化学部 教授
	阿部 佳宣	山形県立山形西高等学校 教諭
	遠藤 耀	山形大学地域教育文化学部児童教育コース 4年

議事に先立ち、出口副学長より挨拶として、次の話題提供があった。

- ・教員人口や出生率の低下など厳しい状況が例年続いている。特に、山形県内でみると、2022年10月時点で、中学3年生が約9200人に対し、2022年の出生数は約5700人である。15年後の2037年には、中学3年生は、今の6割になっている。
- ・こうした中で、本プロジェクトをはじめとして、各機関が連携して質的に高い人材育成を進め、焦らず地道な取り組みを続けていくことが何より大切だと認識している。
- ・また、これからを担う高校生・大学生の皆さんに期待し、率直な意見を聞いて進めていきたいとの発言があった。

本会議は、今年度2回目の開催ということで詳細な自己紹介は割愛し、協議事項は「山形大学地域教育文化学部及び大学院教育実践研究科教職の魅力創造プラットフォーム会議規程」第5条により、中西正樹委員を議長として進めることが提案され、了承された。

I 協 議

1 教職の魅力向上プロジェクトの進捗状況について

叶内委員から、机上配付資料に基づき小学校教員体験セミナーについて、森田委員から、資料1に基づき学びのフォーラムについて、江間委員から、資料2に基づき聞き書きプロジェクトについて、それぞれ説明があり、確認がなされた。次いで、以下のような意見交換があった。

① 小学校教員体験セミナーについて

- ・令和5年度より、長井高校での開催を新たに開始することができた。地域の小学生から高校生、大学生、教員へとつながる好循環の兆しを感じている。地元で開催できることの意義も大きく、継続を目指していきたい。また、教員志願者の数を伸ばしていくことと同様に、教職を志している学生たちに学びの機会を提供する大切さも、このプロジェクトの魅力だと感じている。
- ・高校生が本セミナーに参加することで、教職の難しさに出会い、教職志望が弱まる場面もあるかと思うが、逆に自分の経験を役立てながら教員になって子どもに寄り添うことができるかも、と気がつくチャンスもあるのではと感じた。小さな可能性を積み上げる大切さを実感している。
- ・本セミナーに参加した高校生の立場として、夏休みの事前学習、秋の小学校での学び、高校に戻ってからの振り返り、という一連のサイクルがとても有意義で、教員として身につけるべき力を再確認でき、進路選択のうえでも深みが出たと思う。
- ・教員を志す人が増えていくことも素晴らしいが、どの人もキャリアを自由に選択できる前提がある。最終的に教員とならなかった場合でも、教職に向き合い考えた時間は無駄にはならないと感じている。どの業界で活躍する大人となっても、次の世代を育てるという視点が本プロジェクトで培われていくことに引き続き期待している。
- ・以前に開催されたプラットフォーム会議の意見交換を通じて、本セミナーの事前学習に取り入れた視点がある。実際に本セミナーで出会う教員は限られているが、現場にはもちろん多様な教員がいて活躍している。その点では、1回だけでなく2回参加してもらうことで、気づきが深まる良さもこのセミナーにはあるのではないかと。
- ・開催年度によって、1つの学級や教員を見学するケースと複数の学級や教員を見学するケースがあり、どちらの良さも感じたところである。どんな風に見学スタイルが検討され、機会が提供されているのか。
(関連意見)
*見学スタイルは小学校からの提案によって実施に至る場合が多い。各学校の特徴によるところで工夫をいただいている。

② 学びのフォーラムについて

- ・今回は北海道や佐賀からも高校生の参加申込みがあった。進路決定時期に関して各世代での検討があることも踏まえ、大学は多様な世代や環境の人が学びあう場所であり続ける必要がある。学問に触れる機会を提供する、働きかけるという役割においても、このフォーラムをこれからも続けていきたい。
- ・教員になってからも、若手・中堅など各世代の悩みは生まれ続けていると感じる場面がある。研修などを通じて学びなおしたい、考えてみたいと思う人にこのフォーラムのような機会を届けたいと再認識している。
(関連意見)
*このフォーラムも9年目を迎えたことで、一般的な広報以上に口コミによる参加者が集まりやすい傾向を感じている。まずはこのフォーラムの存在を知らないと、参加を選択することもできない。会場も含め、適度な人数でだからこそ学びあえる側面もある。ゆっくり広げ続けていきたい。

- *具体的な内容や実際の楽しさを伝えることで、参加希望者の心理的なハードルも今以上に下げることができるかもしれない。
- *このフォーラムをはじめ、組織としてプロジェクトを継続する工夫も考えたい。大学にも教育現場にもあてはまる検討課題といえる。
- *所属する学校を通じての全校一斉連絡で今回のようなイベントの案内が届くが、見落としてしまうこともある。友人同士での声掛けも意思決定に重要だと思う。

- ・教職に関心がある高校生でも、学校で関わる先生からのみ得られる情報は限定的に感じることがある。このフォーラムのように教職の根本に触れる機会は大切に思う。

③ 聞き書きプロジェクトについて

- ・恩師へのインタビュー形式ということで、年代としてベテランの先生に話を伺う機会となっているかと思うが、若手教員への訪問機会があってもまた異なる良さがあるのではないか。高校生・大学生のみなさんには、年代の近さも生かされるかと思う。

(関連意見)

- *上記意見のとおり、ベテランの先生の授業見学でこそその気づきもあるが、自身のハードルが上がってしまうこともあるかもしれない。若手の先生からのお話を通じて元気づけられる、やってみたいと感じるシーンがあると思う。
- *お話を伺う先生が恩師だからこそ、聞くことができる内容があり充実感があつた。若手の先生への訪問についても、どちらの良さも想像できる。
- *このプロジェクトの派生として、教職についての若手教員が先輩に聞くという実施形態も、現職教員研修に関連するなど可能性を感じる。

- ・高校生から見ても、今回の報告資料を通じて、実際に聞き書きプロジェクトをやってみたい思いが強くなった。教員になりたい思いをかみしめて言語化する、人とのつながりを育む点でとても楽しみにしているプロジェクトである。

(関連意見)

- *大学が掲げる“次世代形成”の目標にも通じるプロジェクトであると感じている。自分の中にある思いを形にする取り組みとして大切にしたい。

2 今年度の今後の予定について

森田委員から、今年度の本会議開催は今回で最終とし、来年度（令和6年度）も引き続き同じ会議体で継続していきたい旨、説明がなされた。各機関からのご協力も引き続きお願いしたい旨も述べられた。

II その他

宮舘委員から、外部委員（大学生を含む）に対し、今年度の本会議やプロジェクトへの参加を通じての感想（参加記）執筆について依頼と詳細説明があり、令和6年1月31日（水）を目途として提出いただくこととなった。

(当日の記録写真を次ページ掲載)

